

## ④ 災害に備える

### 1. 備蓄

#### 1) 生徒・職員（個人）

食料・飲料などの備蓄	<p>○飲料水 3日分（1人1日3リットルが目安）</p> <p>○非常食 3日分の食料として、ご飯（アルファ米など）、ビスケット、板チョコ、乾パンなど</p> <p>○その他 トイレットペーパー、ティッシュペーパー・マッチ、ろうそく・カセットコンロ など</p> <p>注）非常に広い地域に甚大な被害が及ぶ可能性のある南海トラフ巨大地震では、「1週間分以上」の備蓄が望ましいとの指摘もあります。</p> <p>注）飲料水とは別に、トイレを流したりするための生活用水も必要です。日頃から、水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつも張っておく、などの備えをしておきましょう。</p>
非常持ち出しバッグ	<p>人数分用意しましょう</p> <p>飲料水、食料品（カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）、貴重品（預金通帳、印鑑、現金、健康保険証など）、救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など）、ヘルメット、防災ずきん、マスク、軍手、懐中電灯、衣類、下着、毛布、タオル、携帯ラジオ、予備電池、携帯電話の充電器、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、洗面用具、携帯トイレ</p> <p>※乳児のいるご家庭は、ミルク・紙おむつ・ほ乳びんなども用意しておきましょう。</p> 

#### 2) 学校が備える

『災害発生』



生徒在校時

1. 生徒への対応
2. 職員の管理
3. 避難者への対応

夜間・勤務時間外

1. 避難者への対応



## 東日本大震災で高校生が果たした役割

東日本大震災直後、避難所以外でも高校生が大きな役割を果たしました。

### ●震災後に高校生が果たした役割を見た人々の声

- 震災当日、膝くらいまで水位がある中、ジャージと靴を履いた高校生が、避難してきた私たちを水につかりながら体育館へ誘導してくれた。帰宅できずその場に居合わせただけの彼らの姿は、本当に寒くて冷たい夜でも安心できる、そして頼もしい存在でした。
- 食事の配布の時、地区別の整列づくりに協力してくれた。
- 炊き出し、お弁当を作って配達、支援物資の配達をしてくれた。自分たちも不自由な生活を送っている時に、他人のことを思う心があって優しい子どもたちだと思った。
- 自分自身も被災しているのに、他のお宅へと水を運んだり、お年寄りの方に長時間歩いて食事を届けた。自分だったらその子たちと同じことができるだろうかと考えさせられた。
- ボランティアセンターでのボランティアマッチングを行っていた。身近に起きている震災なのに、一切ボランティアをしない大人も多い中、まだ10代の彼氏彼女らは非常に頼もしく、誇りであり、まぶしかった。
- 避難所で被災した子どもたちと遊んでくれた。狭い避難所生活をしてきた子どもたちはとても楽しそうだった。その状況の中、大人たちは子どもと遊んであげる余裕がなかった。中高生たちがとても‘たくましく’見えました。



避難所で小さなお子に絵本を読んで聞かせる高校生（第三避難所）

写真提供：河北新報

（公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン「震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト報告書」〔2013年4月〕を元に再構成／再編集したもの）